

令和 7 年度 事業計画書

2025（令和 7）年 4 月 1 日から
2026（令和 8）年 3 月 31 日まで

公益社団法人日本レスリング協会

目 次

令和 7 年度事業計画書

I. はじめに	1
1. 方針	1
II. 事業概要	1
1. レスリング競技大会等の開催（定款第 4 条 1 項）	2
2. 日本代表選手・役員の選任（定款第 4 条 2 項）	3
3. レスリングの普及・発展施策と関連事業の実施（定款第 4 条 3 項）	4
4. その他本協会の目的を達成するために必要な事業の実施(定款第 4 条第 4 項)	5

I. はじめに

1. 方針

公益財団法人日本レスリング協会（以下、本協会という。）は、日本におけるレスリングの統括団体として、レスリンを発達させることにより、国民の体力向上とスポーツ精神の涵養に資することを目的としている。この方針のもと、令和7年度は以下の事業を実施する。

II. 事業概要

1. レスリング競技大会等の開催（定款第4条1項）

日本国内におけるレスリングの普及・育成・強化のために、以下の競技会を開催（主催・共催）する。

No.	大会名	開催地	開催期間
1	天皇杯全日本選手権大会	東京都	12月18日 ～ 12月21日
2	明治杯全日本選抜選手権大会	東京都	6月19日 ～ 6月22日
3	国民スポーツ大会	滋賀県	9月29日 ～ 10月2日
4	U17,U20全日本選手権大会	神奈川県	4月26日 ～ 4月27日
5	U15,U23全日本選手権大会	東京都	3月16日 ～ 3月15日
6	ジュニアクイーンズカップ	東京都	4月12日 ～ 4月13日
7	U13オープントーナメント	東京都	2月28日 ～ 3月1日
8	ドン・キホーテ杯ビーチレスリング選手権大会	茨城県	8月10日
9	ドン・キホーテ杯ビーチレスリング沖縄大会	沖縄県	11月予定
10	全日本大学選手権大会	大阪府	11月8日 ～ 11月9日
11	全国高校生グレコローマン選手権大会	滋賀県	8月14日 ～ 8月17日
12	風間杯全校高校選抜大会	新潟県	3月27日 ～ 3月29日
13	沼尻杯全国中学生選手権大会	茨城県	5月4日 ～ 5月5日
14	全国少年少女選手権大会	東京都	7月25日 ～ 7月27日
15	フォーデイズカップ全日本女子オープン選手権大会	静岡県	10月11日 ～ 10月12日
16	ビーチレスリングワールドシリーズ国内予選会	東京都	調整中

2. 日本代表選手・役員の選任（定款第4条2項）

(1) 日本代表選手における国際競技力の向上を目的として、シニア、U23、U20、U17、U15、それぞれの年齢区分において日本代表選手団を編成し、次の大会へ参加する。

No.	大会名／事業名	開催地	開催期間
1	シニア世界選手権大会	クロアチア	9月13日 ～ 9月21日
2	U23世界選手権大会	セルビア	10月20日 ～ 10月26日
3	U20世界選手権大会	ブルガリア	8月18日 ～ 8月24日
4	U17世界選手権大会	ギリシャ	7月28日 ～ 8月3日
5	U15,U20アジア選手権大会	キルギス	7月5日 ～ 7月13日
6	U17アジア選手権大会	ベトナム	6月18日 ～ 6月26日
7	4th ランキングシリーズ	ハンガリー	7月17日 7月20日
8	2nd ランキングシリーズ	アルバニア	2月25日 ～ 3月1日
9	ポーランドオープン	ポーランド	7月30日 ～ 8月3日

(2) レスリング及びノン・オリンピックスタイルレスリングにおける国際競技力の向上と、世界のトップレベルで活躍する選手の育成を目的として実施する加盟団体主催事業に対し、協力・支援をする。

No.	大会名／事業名	開催地	開催期間
1	シニア世界グラップリング選手権大会	未定	未定
2	ビーチレスリングワールドシリーズ	未定	未定
3	西日本学生連盟国際大会派遣	未定	2月予定
4	シニア世界ベルトレスリング選手権大会	未定	未定

(3) 日本代表選手・役員として参加する事業において本協会の目的を達成するために、次の強化・育成事業を実施する。強化戦略プラン及び一貫指導システムを活用し、JOC エリートアカデミー事業及びNTS 研修会事業等を実施し、競技の普及、競技者の育成・発掘を行う。併せて、国際交流を通じ選手・役員・国際審判員の国際感覚を醸成し、世界で活躍できる人材の育成・発掘を行う。

No.	事業名	開催地	開催期間
1	全日本合宿／FS代表	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
2	全日本合宿／FS次世代	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
3	全日本合宿／GR代表	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
4	全日本合宿／GR次世代	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
5	全日本合宿／WW代表	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
6	全日本合宿／WW次世代	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
7	海外合宿／GR代表		～
8	海外合宿／FS代表		
9	JOCエリートアカデミー事業	東京都、他	4月1日 ～ 3月31日
10	NTS研修会	全国各地	4月1日 ～ 3月31日
11	国際審判養成プログラム	ハンガリー	10月7日 ～ 10月12日
12	国際審判養成プログラム	韓国	11月予定
13	U15GR普及事業	全国各地	4月1日 ～ 3月31日
14	日米高校交流派遣／ワシントン、オレゴン	米国	1月3日 ～ 1月15日
15	日米高校交流受入／カリフォルニア	調整中	6月1日
16	日韓競技力向上スポーツ交流派遣	韓国	9月1日
17	日韓競技力向上スポーツ交流受入	調整中	11月1日

3. レスリングの普及・発展施策と関連事業の実施（定款第4条3項）

（1）指導者の養成

日本スポーツ協会や都道府県体育・スポーツ協会等と連携し、多様なライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者の育成を目的とし、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる指導者の育成を目指すために、以下の事業を実施する。

①公認スタートコーチ

②公認コーチ 1

③公認コーチ 2

（2）情報の発信

日本レスリング協会公式ホームページ及び SNS 並びに既存メディア（テレビ、

新聞、雑誌、他社 web、等) を利用し、レスリングに関わる有用な情報、競技のイメージアップを図るための情報、安全とコンプライアンスに関する情報等を積極的に発信し、レスリングコミュニティの拡大を図る。

(3) 普及事業の実施

児童や小学生を対象とした『レスリング体験教室』の実施、スポーツジム等にて本格的なトレーニングを実施している層への『レスリング補強トレーニング体験』の実施など、既存・新規パートナーや傘下連盟等と連携した普及イベントの実施や、その他の普及施策の検討。

4. その他本協会の目的を達成するために必要な事業の実施(定款第4条第4項)

(1) 財政基盤の強化

当協会は、経営の健全性を確保するために、財務管理の健全性の向上が不可欠であると認識している。具体的には現実的な予算を策定し、実績管理を行うことに加えて、適切な財務報告を実施する。また、外部の専門家との連携を強化し、財務管理に関するアドバイスや指導を受け、財政基盤の強化を図り、持続可能な選手強化と組織運営を実現していく。

(2) マーケティングの強化

持続可能な選手強化と組織運営を実現するために、現行のスポンサー、パートナー、サプライヤーなど各企業との連携を図り、お互いの利点を成長させる取組を検討する。また、国内大会開催に特化したパートナーシップや、日本代表選手団の年齢区分毎のパートナーシップなど、新たなテーマを積極的に提案していく。さらに、各種助成金、クラウドファンディング、賛助会員制度等を活用し、より幅広い支援獲得も同時に検討を行う。

(3) ガバナンスコードの推進

「スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>」は、スポーツ団体の中でも特に高いレベルのガバナンスの確保が求められる中央競技団体が適切な組織運営を行う上での原則・規範を示したものである。当協会は、その遵守状況について、年1回の自己説明を行い公表する。

(4) コンプライアンス活動の推進

昨年度に引き続き、当協会の各種規程の見直しを継続する。また、選手・指導者・役員・職員向け各講習会の実施に無向けた準備を行い、施し、体罰・暴力行為及び各種ハラスメントの根絶、アンチ・ドーピングの遵守、内部統治システムの拡充を目指す。

(5) 加盟団体及び関連組織との連携

多様な目的の元に活動している加盟団体・傘下連盟及び当協会専門委員会と連携し、課題とその解決方法について検討する。

(6) 統括団体との連携

公益財団法人日本オリンピック委員会（以下、JOC とします）及び、公益財団法人日本スポーツ協会（以下、JSPO とします）並びに独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下、JSC とします）と連携し、以下の事業を実施する。

No.	事業名	連携団体
1	コーチ設置事業	JOC
2	スポーツ指導者海外研修事業	JOC
3	日韓競技力向上スポーツ交流	JOC
4	国際審判養成プログラム	JOC
5	エリートアカデミー事業	JOC
6	選手・指導者海外研さん活動	JOC
7	能力育成教育	JOC
8	国際人養成アカデミー	JOC
9	ナショナルコーチアカデミー	JOC
10	ハイパフォーマンサポート事業	JSC
11	公認スポーツコーチ養成講習会	JSPO

(7) 専門委員会の事業計画

当協会には 16 の専門委員会がある。各専門委員会の今年度の施策は次の通り。

①総務委員会

- ・それぞれの大会における業者選定や必要経費の算出を適切に行い、無駄なく効果・成果ある予算の執行に努める。
- ・大会において委員会委員の役割を明確にし、迅速な対応と場面での判断の権限をあたえ、効率的な運営に努める。

・大会における演出や集客方法などを他競技団体の成功事例を参考にして、レスリング競技の普及とファンの獲得に努める。

②財務・事業委員会

・協賛企業への提案、協議、契約締結などについて、事務局と連携して行っていく。

・協会の予算策定、予算管理、決算などについて、事務局と連携して行っていく。

③国際交流委員会

・海外チームの受入れ態勢の構築

④強化委員会

強化戦略プランに則り強化を進める。

⑤審判委員会

- ・対面会議を実施しルールの情報提供及び共有の徹底
- ・ルールブックの修正・作成及び活用
- ・e-ラーニングを用いてクリニックの実施
- ・ニュートラルレフリーの活用（国内審判員の意識向上）

⑥指導者育成委員会

- ・委員会の開催
- ・JSPO 公認スタートコーチ講習会の開催（年間2回予定）
- ・JSPO 公認コーチ1講習会の開催（年1回予定）
- ・JSPO 公認コーチ3講習会の開催（年度内開催予定）

⑦段位審査委員会

- ・段位申請を受けて審査を行い、認定及び発送を行う。
- ・所持段位や番号、取得日に関する照会依頼に対応する。
- ・必要段位が決められている大会について、申込締切後に確認を行い、未取得者には連絡し、大会までに確実に取得させる。
- ・審判員各等級の申請者について、必要段位未取得者には連絡し、速やかに申請・取得させる。

- ・HP 改定に伴い、段位制度や取得方法について掲載し広く周知する。

⑧組織普及委員会

- ・登録管理と統合と統一システム化

⑨広報委員会

(1)-1.公式サイトの運用権を得たことで、リニューアルの目的であった新規ファンの獲得、スポンサー獲得のためのコンテンツを作成・発信する

- ・代表選手情報の充実：コアファンでない方が選手に興味をもてるような情報を発信し、そこから競技への関心につながることを狙う。(競技面と親しみやすさ)

・わかりやすい競技紹介、ルール解説：試合観戦に楽しさを感じるのはルールの理解と捉え、初心者向けの楽しいルール解説コンテンツを発信する。また、特徴的で意外なウォーミングアップなども紹介し、関心を高めることを狙う。

- ・スポンサーとのコラボ施策を検討

・SNS の運用権を得た際には、上記をカジュアル視点のコンテンツで掲載し、幅広い層へのコンタクトを狙う。

(2)外部からのポジティブで効果大と期待できる提案を活用することで、新たな分野へに挑戦し競技だけでなく、組織としての可能性を見出す

(3)協力機関と連携し、国内外大会等の素材を確保する

(4)活動時の広報スタッフウェアと Official 用ビブスの購入

(5)公式サイトの保守契約分、契約時間を超過した際の予備

⑩スポーツ医科学委員会

- ・ドクター・トレーナーについては助成金を活用し活動の補助とする
- ・科学部会における、天皇杯でにおポスター掲示

⑪アンチ・ドーピング委員会

- ・承認 Educator の養成がようやく出来、今年度は JADA に依頼せずにアンチ・ドーピング教育を実施する

⑫スポーツ環境委員会

- ・リユース、リサイクルの推進

⑬国民スポーツ大会委員会

- ・ 県協会及び開催権における資格審査の確認徹底
- ・ 抽選方法をアナログからデジタルへの検討・移行
- ・ 正規視察対応に向け、大会施設基準、要望事項等の標準化（リスト化）
- ・ 国スポへの移行に伴う、イベント事業の計画

⑭倫理委員会

- ・ コンプライアンス研修の実施

⑮情報戦略委員会

- ・ 2025 年世界選手権、大陸別選手権等の国際大会入賞者の試合動画の JISSNX への取込み
- ・ 上記試合動画の編集・解説・データベース化
- ・ 上記試合の統計分析
- ・ 左記の情報提供を行うための指導者及び選手の ID 及びアクセス資格の管理

⑯アスリート委員会

- ・ オンラインミーティングを活用し、各所属選手、指導者からのヒアリング
- ・ SNS を活用した情報共有・提供
- ・ 2 か月に一度アスリート委員で会議（現状の課題を確認）